

企業が伸びる、個性ある地域社会創造のために、今、何が必要か。何をすべきか。

地方のICT戦略 [58]

Information and Communication Technology

エノキタケの生産高日本一を誇る中野市で、早くから大型栽培による企業化を進めてきた株式会社ケーアイ・オギワラ。ICTを活用することで社員が働きやすい環境を整備してきた同社には、敬天愛人〓天を敬い人を愛するという企業理念が基盤にありました。

J A中野市とともにエノキタケの産業振興に貢献

―中野市は、エノキタケの生産量が全国1位を誇る。きのこの里として知られています。きのこ栽培を中核事業とする御社の歴史や事業の強みについて教えてくださいませんか。

弊社では、エノキタケの生産量が年間6万7000トンあり、また出荷量では全国

Interview

株式会社ケーアイ・オギワラ

代表取締役

荻原 大輔 さん



―「ギガラクWiFi」を導入されたきっかけは、なんでしたか？

弊社では、エノキタケ工場や培養センターで働く従業員を含めて300人ほどいるんですが、そのうち100人近くを外国人の技能実習生が占めています。フィリピンやミャンマーなどから働きに来る外国人を雇い始めたのは12年ほど前からです。それまで実習生の宿泊施設は相部屋だったのですが、2019年に個室寮を建てました。相部屋というのは、どうしてもストレスがたまりがちです。それに伴い、スマホやiPadなどインターネットが自由に使えるWiFi環境を整備しました。インターネットが使えれば祖国の家族や友人とも不自由なく連絡が取り合えますし、SNSを使ったり動画閲覧やゲームなどでプライベートな時間を楽しんだりすることができ、日本でも過ごしやす生活環境を整え、少しでも長く働いてもらえたらと考えています。



―御社では、栽培法についてはもちろん、きのこの栄養や調理方法などにも詳しいきのこマイスターの育成にもご尽力されていますね。

受講料の会社負担など、全社あげてサポート体制を敷いており、現在は26名のきのこマイスターがいます。きのこマイスターは、(一社)日本きのこマイスター協会の認定資格で、正しく正確な知識を持つたきのこの伝道師として、これからも活躍してほしいと願っています。

「おまかせRPA」の活用で社員の福利厚生も充実

―「ギガラクWiFi」に続いて、「おまかせRPA」も導入していただきました。

「おまかせRPA」は、弊社のグループ企業である(有)信州培養センターと(有)えんとく培養センターで導入しました。

培養センターは、きのこが生育する培地を調整して、菌を植え付ける作業をしている工場です。たとえば、エノキタケという菌を植え付けてから20日から22日の間で発生処理をしないと品質が崩れてしまうんです。ブナシメジだったら65日から70日後、エリンギなら35日から38日後と、きのこによっても異なるのですが、発生の適齢期があるんです。いわば、きのこが育つ培地を管理するわけですが、これまでは一人の社員がエクセルを使ってそれぞれの適齢期を見極めていました。

―「おまかせRPA」の良いところは、情報のインプット&アウトプットなどの業務を自動で代替してくれることです。RPAに任せることで時間の効率化を図ることができ、さらに社員の長時間労働や休暇が取れないといった課題もクリアすることができました。福利厚生から考えても、「ギガラクWiFi」と同じように「おまかせRPA」も働きやすい職場環境づくりと社員の満足度向上につながっているのではないかと思います。

―ICTを使った今後の展望などは、なにかお考えでしょうか？

3年前からぶどう栽培に取り組み始め、今年初収穫を迎えました。現在7haの土地を確保して、最終的には20haに拡大していきたいと考えています。実は、ぶどう栽培を始めよ



うと思ったきっかけは、ICTの進化があったからです。それまで果実栽培というと非常にアナログな世界でしたが、ICTを活用した土壌の水分管理をはじめ農業用ドローンの開発など、スマート農業へと移行しつつあります。ICTの農業利用によって栽培管理の数値化、見える化も可能となり、地域の情報をビッグデータとして明確に残せます。農業は、将来的に非常に魅力のある分野となるでしょう。これからNTTとJA中野市が協働で進めていくと思いますので、新しいツールやサービスの導入を検討したいと考えています。



本社

Profile
○株式会社 ケーアイ・オギワラ
事業内容/きのこ栽培
本社 / 中野市大字三ツ和1287-1
TEL / 0269-2410510
URL / http://ogiwakinoko.com